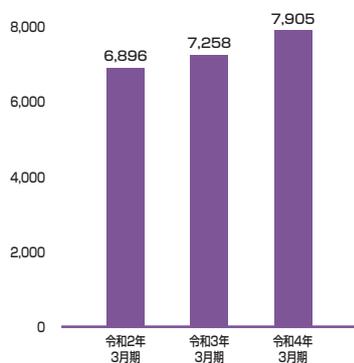


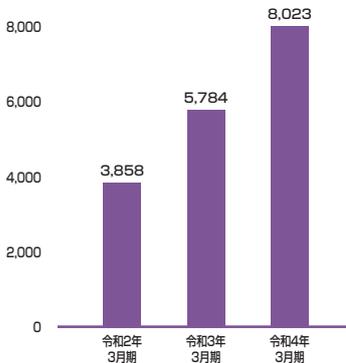
## 業績の概況（単体）

- 銀行の本業の収益を示すコア業務純益は、役務取引等利益が増加したこと等により、前期比647百万円増加して7,905百万円となりました。
- 経常利益は、債券関係損益が増加したこと等により、前期比2,239百万円増加して8,023百万円となりました。
- 当期純利益は、前期比1,271百万円増加して5,541百万円となりました。

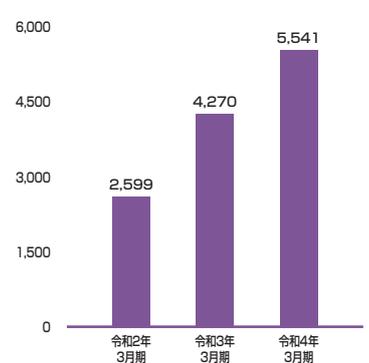
■ コア業務純益 (単位：百万円)



■ 経常利益 (単位：百万円)

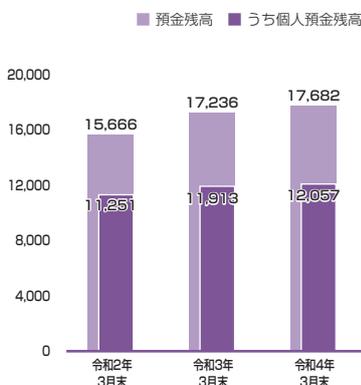


■ 当期純利益 (単位：百万円)

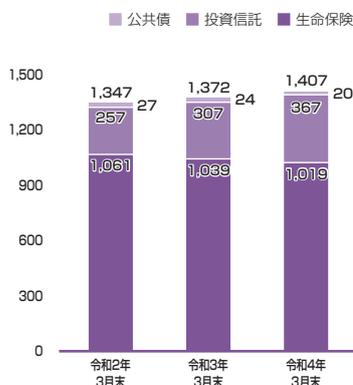


- 預金残高／個人預金、法人預金ともに順調に増加したことにより、預金残高は前期末比445億円増加して1兆7,682億円となりました。
- 預り資産残高／投資信託の販売が順調に推移したことから、残高合計は前期末比35億円増加して1,407億円となりました。
- 貸出金残高／新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業及び個人向け貸出等に積極的に取り組んだ結果、貸出金残高は前期末比611億円増加して1兆4,115億円となりました。

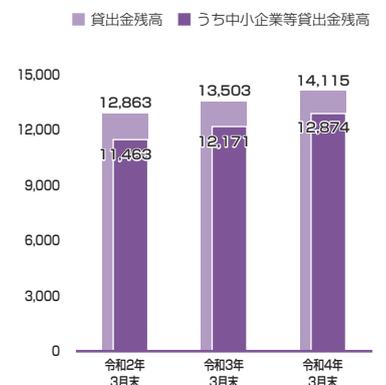
■ 預金残高 (単位：億円)



■ 預り資産残高 (単位：億円)



■ 貸出金残高 (単位：億円)



## 自己資本比率の状況

経営の健全性を示す自己資本比率は、9.57%になりました。

国内のみで営業する銀行に義務付けられた国内基準の4%のみならず、国際統一基準の8%を上回っており、健全な経営体質を維持しています。

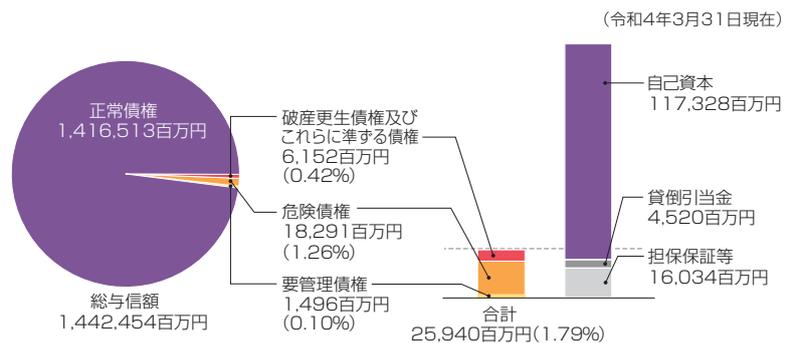


## 金融再生法に基づく開示債権及び保全・引当等の状況

当行では、厳格な自己査定に基づいて、適切な償却・引当を実施しています。

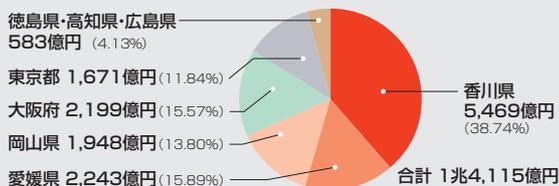
令和4年3月末における金融再生法に基づく正常債権以外の債権は25,940百万円となっていますが、そのうち、20,554百万円は担保や引当金によりカバーされています。

残り5,386百万円につきましては、自己資本117,328百万円により十分に備えています。



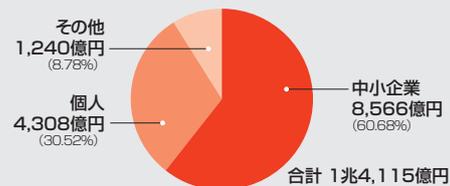
## 貸出金における地域別・貸出先別内訳

貸出金における地域別内訳 (令和4年3月31日現在)



香川県を中心とした四国地区、岡山・広島地区及び大阪地区を主たる営業基盤とし、貸出金の88.13%は四国地区、岡山・広島地区及び大阪地区で運用しています。今後も地域のお客さまへの貸出を積極的に行うことによって、地域経済の活性化に取り組んでいきます。

貸出金における貸出先別内訳 (令和4年3月31日現在)



貸出全体に占める中小企業・個人のお客さま向けの貸出金残高は1兆2,874億円であり、比率は貸出金全体の91.21%となっています。